

令和元年度

那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画委員の評価集計及び総合評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり <基本目標に対する総合評価：B>

【小委員会メンバー】

大内康子委員・佐久間久枝委員・山本雅子委員・石田和美委員・大石剛志委員
(欠席：江連広土委員)

2-1 生活環境の充実 評価：B

- ・ゆーバス・ゆータクなどの公共交通システムについては、利用者数の増加は評価できる。
- ・個々のニーズに対しての移動サービスが課題である。
- ・きめ細かなニーズの対応をされている民生委員もいる。民生委員が、どこまで対応するのか等を地域住民と考えていくことが課題である。
- ・バリアフリー化推進については、障がい者、高齢者などのニーズ把握した上での対応が必要である。

2-2 防災・防犯体制の充実 評価：B

- ・避難行動要支援者支援制度の障がい者や地域で孤立している方、自治会未加入者やアパート住民と地域住民の関係性をどう結び付けていくのか課題である。民生委員も情報がなく漏れも生じる可能性もある。
- ・今、困っていなくても今後、病気や加齢、障がい等により、支援が必要になってくることもある。緊急時、助けてほしいといった場合の対応が今後の課題となる。(日常的な関わりが重要)

2-3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり 評価：B

- ・子育てサロンの効果を感じるが、障がい者の居場所づくりが進んでいない。
- ・居場所づくりでは、空き家の利用を考えた場合、使えるようにリフォーム等の整備費用が必要なため市へ環境整備を要望したい。
- ・子ども食堂について、公立の公民館を利用する際の指針を示していただきたい。

2-4 地域における見守り体制の充実 評価：B

- ・スクールガードは、自治会、高齢者、保護者等で見守り体制ができている。
- ・子どもの貧困みえにくい。学校と子ども子育て総合センターと連携し、家庭訪問している。
- ・赤ちゃんが生まれれば、母子保健推進員が訪問し、家庭の状況把握に努めている。
- ・地域住民助け合い事業は地域差が課題である。